

# 水の存在

「水」は、僕たちが生まれるはるか昔からこの世に存在していた。しかし、今でも形も性質も変わっていない。なぜだろう。

生態系は、魚類から進化を遂げ、現在は哺乳類である人間が繁栄している。

「水」は、地球というものに一番関わりがあるものだと思う。

地球の約七割が海という塩水であるからだ。

「水」は、人間にとっても大切なものであるが、時に災害として襲ってくる。

人間の主観で見ると「水」は、便利だが恐ろしいものというイメージがある。

しかし、それは主観でものを見ているからだと思う。

水は、本来地球と人間との間にあるつながりのようなものだと思う。

水は、古来から繁栄した生命体と地球を中立的な立場から支えていた。

しかし、人間はその立ち位置を変えた。

人間は中立なはずの水を支配しようとした。

実際、川が氾濫することや、土砂崩れが起こることは

天災としての想定範囲に治まっている。

古代エジプトは、それを予測して、作物を栽培した。

山からの恵みをうまく利用したのだ。

しかし、今ではその災害も地球温暖化により従来よりも被害が多く出ている。

だから、対策のためにダムで水量を調節している。

これこそ、人間が水を支配しているといえるのではないか。

そもそも、人間が蒔いた種が自分自身に戻って来ているだけであり、

水自体は関係ない。

環境を変化させているのは人間であり、水は当事者であるだけのことだ。

水は被害者なのだ。人間が思ってるより、水は繊細である。

また、水は上水道などで多量の塩素で消毒されている。

人間は間接的に飲むから、仕方がないと感じているがこれは間違いだと思う。

わざわざなんて塩素なのか。人間は、地球を支配した気になっている。

水中の細菌や微生物までも。それで、均衡が保てるわけがないだろう。

ウイルス対策でこの時世大変なことになっているが、

これも人間の行いを非難していると捉えてもいいだろう。

どうしても人間という生き物は、言葉だけで判断する。

地球の声、水の声、植物の声、細菌の声など耳で聞こえないものや読めないものは、

そもそも考えようもしないのだ。

今から2000年前産業革命が起き、50年前には人間は大きな発明を幾つも発見した。

その代償に平均気温は上昇し、地域の格差も生まれてしまった。

最後は自分に返ってくる。

人間が残した負の遺産は、これからもこの先の子孫たちによって

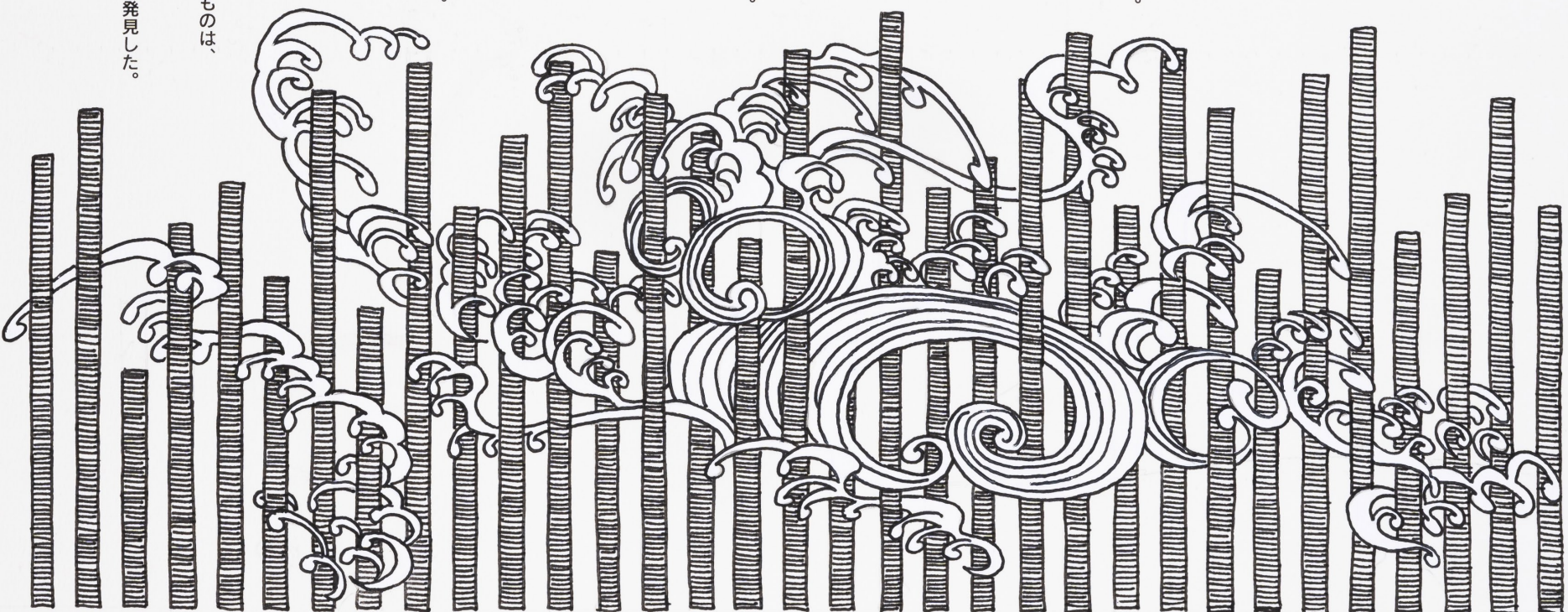
片付けられるだろうが、今生きている私たちはどうするべきであろう。

過去の過ちを認めて、恥を捨てることだと思う。

返ってくることも誰もが想像できる未来だからこそ、

軌道修正はいくらでも効くと思う。一人ひとりが意識を持って、

一人の人間として地球を考えていくべきであろう。



駿台甲府中学校 三年

保坂雄仁

絵

青山恵